



あなたから始まる次世代への健康活動

わかさ生活。



“ブルーベリーを育ててくれる、北欧の恵みに感謝したい”

わかさ生活が行っている「日本・フィンランド友好プロジェクト」は、2005年9月に、サンタクロースが住むことで有名な北欧フィンランドへ1本の「もみの木」を植樹したことから始まりました。その年のクリスマス、「もみの木のお礼に」と、フィンランドからサンタクロースが来日し、たくさんの子どもたちに夢を届けてくれたのです。



2007年 サンタさん招待の様子

2007年で3回目を数えたサンタクロースの来日は、12月11日(火)～14日(金)の4日間で約3,000人もの子どもたちと触れ合い、たくさんの笑顔を見ることができました。実はクリスマス前から、子どもたちや保護者の方、保育園の先生から「またサンタさん来るかなあ？早く会いたい！」という声がたくさんあがっていました。

それだけに、心待ちにしたサンタクロースが現れると、子どもたちもいつも以上の大歓声！初めて憧れのサンタクロースと、会った子も「サンタさんおっかい！」と目をまるくしておおはしゃぎ。「サンタさんに聞きたいことは？」と聞くと「はい！」と大きな声で手が上がり、たくさんの質問が。「なんでそんなにお尻が長いの？」「何歳？」「トナカイさんに乗ってきたの？」と目を輝かせて聞いていました。サンタクロースもそんな子どもたちの笑顔を見て、とても嬉しそうな顔をしていました。



「はいー！」大きな声でサンタクロースに質問！



「サンタさん大きいね！」とはしゃぐ子どもたち。



サンタクロースからのプレゼントは「ブルーベリー」の苗。



たった1本の「もみの木」が、国境を越え人と人をつなぎ、また新しい縁へとつながっていきます。世界中の子どもたちに夢や幸せを与えてくれるサンタクロース。私たちわかさ生活は、これからも日本とフィンランドの架け橋になって、子どもたちに夢や希望をプレゼントする活動を行って参ります。